

神奈川県立がんセンター 呼吸器内科 レジデント研修評価表 (年次)		
レジデント 指導医 研修期間	期 (氏名)	2022.3 Ver.2 レジデントは太枠内を記入
	西暦 年 月 日から	
	西暦 年 月 日まで	
がん専門医研修における呼吸器内科医としての下記の研修目標について、自己評価をするとともに、指導医による評価も受ける。		
	A:修得した B:ほぼ修得した C:目標に達しない	
	自己評価	指導医評価
1. 肺癌の診断技術の習得		
1) 胸部X線・CT画像所見が読影できる	A・B・C	A・B・C
2) 気管支鏡下生検が適切に行える	A・B・C	A・B・C
3) ハイパーカ-検査が適切に行える		
2. 肺癌/悪性胸膜中皮腫/縦隔腫瘍の治療方針決定		
1) 外科切除適応症例の診断が行える	A・B・C	A・B・C
2) 放射線治療適応症例の診断が行える	A・B・C	A・B・C
3) ガイトラインに基づいた適切な薬物療法の方針の決定	A・B・C	A・B・C
4) 治験・臨床試験治療対象の患者の適切な決定	A・B・C	A・B・C
5) BSCの方針を適切に決定できる	A・B・C	A・B・C
6) 悪性胸膜中皮腫の治療方針を適切に決定できる	A・B・C	A・B・C
7) 縦隔腫瘍の治療方針を適切に決定できる	A・B・C	A・B・C
3. 各薬物療法の適切な実施		
1) 殺細胞性抗がん剤治療が適切に行える	A・B・C	A・B・C
2) 免疫チェックポイント阻害剤治療が適切に行える	A・B・C	A・B・C
3) 分子標的薬治療が適切に行える	A・B・C	A・B・C
4) 再発肺癌の治療が適切に行える	A・B・C	A・B・C
4. 各病態の処置の適切な実施		
1) 癌性胸水のコントロールが適切に行える(ドレナージ/癒着)	A・B・C	A・B・C
2) 癌性心膜炎の適切な対応	A・B・C	A・B・C
3) 上大静脈症候群に対する適切な対応	A・B・C	A・B・C
4) 腫瘍による気道狭窄の適切な処置	A・B・C	A・B・C
5) 疼痛・呼吸困難に対して適切な症状緩和ができる	A・B・C	A・B・C
6) 肺癌の腫瘍随伴症候群に対する適切な対応	A・B・C	A・B・C
7) 薬剤性肺障害に対する適切な対応	A・B・C	A・B・C
3. 適切な患者対応		
1) Informed Consentが適切に行える	A・B・C	A・B・C
2) 他科および他院との連携が適切に行える	A・B・C	A・B・C
4. 学会・研究活動		
1) 肺癌診療に必要な学会に参加した	A・B・C	A・B・C
2) 肺癌診療に関する研究の学会報告を行った	A・B・C	A・B・C
3) 肺癌診療に関する論文を発表した	A・B・C	A・B・C
レジデント自由記載欄：(欄不足の場合は裏面へ)		
評価： 年 月 日	判定： 優 ・ 良 ・ 可 ・ 不可	
指導医記載欄：		

提出方法:レジデントは研修期間終了時に自己評価を記入して指導医に提出し、指導医は指導医評価を記入後1ヵ月以内に総務企画課に提出すること。